

世界人と成るべし

海田町名誉町民 織田幹雄氏をたどる

第8回

戦後のスポーツ復興

織田幹雄さんは、1945年（昭和20年）12月9日に復活した日本陸上競技連盟の常務理事として戦後のスポーツ復興に努めました。
今回は戦後のスポーツ復興に織田さんがどのように寄与したかを追っていきます。

戦後のスポーツ関係者との再会と支援

1924年の第8回オリンピックパリ大会の時、アメリカの槍投げの選手だったウィリアム・ニューフェルドと出会った織田さん。1928年の第9回オリンピックアムステルダム大会の時に、彼に紹介してもらったのが、アメリカ選手団団長を務めていたダグラス・マッカーサーでした。
戦後、連合国軍最高司令官総司令部（GHQ）最高司令官として来日。皇太子明仁殿下との会見において、スポーツのこと、オリンピックアムステルダム大会において団長を務めたこと、そしてその大会で日本人の織田さんが優勝したことを話すと、皇太子

殿下は、「私の同級生の織田正雄は、織田幹雄さんの息子です。」と答えました。この会見の結果、GHQ民間情報教育局（CIE）の体育担当官として来日したウィリアム・ニューフェルドに「日本国民に元気がないので、アメリカのスポーツ事情を織田幹雄に見に行かせるように」と命じ、織田さんのアメリカ視察が実現しました。織田さんが、渡米して世界のスポーツ事情を視察したことは、スポーツが繋がった人との縁によるものでした。

実現した欧米視察

アメリカ視察は、ハワイ、ロサンゼルス、サンフランシスコ、ニューヨークの予定で

したが、アメリカの陸上代表のチームが北欧へ遠征するため、北欧に渡ることになりました。北欧は2週間の予定で、スウェーデン・ノルウェー・フィンランドを訪れました。スウェーデンでは、言葉の違いに不自由ながらも、新しい練習法も見学したようです。

この欧米視察で織田さんは、戦前の日本のスポーツは十分に科学的な研究が行われていなかったため、身体の動きやその他の面で大きな間違いがあったこと、色々な面で勉強不足だったことを感じました。また、この視察で、アメリカの長距離のトップ選手から、今世界でスピードを切らないで前進する走り方である「ピッチを速めたピッチ走法」が行われていることを聞きました。織田さんは帰国後、ピッチ走法の説明をし、普及を図りました。日本の選手が実際に取り入れるのには少し時間がかかりましたが、織田さんの普及活動により徐々に広まっていきま



▲視察をする織田さん

広報かいた12月号（No.582）

平成27年12月1日発行

発行／海田町 編集／企画部企画課

〒736-8601 広島県安芸郡海田町上市14番18号

TEL(082)826-9122 FAX(082)826-9103

ホームページ <http://www.town.kaita.lg.jp/>
(携帯版) <http://www.town.kaita.lg.jp/mobile/>
E-mail kikaku@town.kaita.lg.jp



印刷／レーブレス
株式会社